

## 病床機能の転換等について〔和歌山保健医療圏構想区域 協議の場〕

医療機関名 医療法人 橋本病院

現在の病床機能【概要】 <平成30年1月現在>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	稼働率(注)
急性期	1	10対1一般病棟入院基本料	60	90.8%
慢性期	1	療養病棟入院基本料 1 (うち地域包括ケア入院医療管理料 1)	58 (29)	96.0%
計	2	—	118	92.2%

(備考) 地域包括ケア入院医療管理料 1 を、療養病棟にて病室単位で算定

(注) 平成28年7月1日～平成29年6月30日までの病床稼働率 (H29病床機能の現状等アンケートより転記)



転換の予定 <平成30年4月以降>				
機能区分	病棟数	入院基本料 又は 特定入院料	病床数	
急性期	1	10対1一般病棟入院基本料	60	
回復期	1	療養病棟入院基本料 1 (うち地域包括ケア入院医療管理料 1)	58 (32~35)	
計	2	—	118	

(転換の概要) 療養病棟における地域包括ケア入院医療管理料 1 の算定病床を拡充

現在の病床機能【詳細】
<p>&lt;患者の状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 急性期           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 消化器外科、整形外科及び内科の急性期疾患患者を受け入れ</li> <li>・ 消化器外科及び整形外科の患者が 9 割を占める               <ul style="list-style-type: none"> <li>月平均入院患者数 …………… (H27) 84名 → (H28) 91名 → (H29) 102名</li> <li>手術件数 (消化器・整形外科) …… (H27) 319件 → (H28) 440件 → (H29) 573件</li> <li>救急搬送件数 …………… (H27) 179件 → (H28) 307件 → (H29) 401件</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>※各項目ともに、年々増加傾向</li> <li>○ 慢性期           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 療養病棟58床 (地域包括ケア29床含む) の平均在院日数は57.8日 (H29)</li> <li>・ 医療療養病床 (29床) の看護師は、基準では20対1のところ、13対1で配置</li> <li>・ 医療療養病床の入院患者のおおよその区分割合               <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 区分3 : 48%、区分2 : 34%、区分1 : 18%</li> </ul> </li> <li>・ 長期入院患者割合が低下</li> <li>・ 一般病棟より、急性期を脱した患者や外科手術後のリハビリを継続的に実施する患者が増加</li> <li>・ 地域包括ケアへの直入院割合は12%と低く、自院急性期からの転棟が大半を占める</li> <li>・ 退院支援看護師1名、社会福祉士1名を配置し、入院時より退院調整に関わっている</li> </ul> </li> </ul> <p>&lt;在宅療養支援&gt;</p> <p>近隣クリニックや介護福祉施設からの脱水・低栄養・熱発・肺炎等のサブアキュートの受け入れ機能に加え、レスパイト入院にも対応</p> <p>&lt;リハビリの実施状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入院患者をメインにリハビリを提供 (入院患者のうち70～80%を対象にリハビリを実施し、主に回復期医療を提供)</li> <li>・ 理学療法士14名、作業療法士1名の合計15名体制</li> <li>・ リハビリ実施状況           <ul style="list-style-type: none"> <li>一般 …………… 月平均約2,600単位</li> <li>地域包括ケア …… 月平均約2,100単位 (1人当たり2.47単位)</li> <li>療養 …………… 月平均約800単位</li> </ul> </li> </ul> <p>※入院患者の運動機能が良くなり、元気になって退院することを前提にリハビリテーション医療を提供</p>



転換後における病院のあり方
<p>&lt;地域医療において担う役割 (病院全体として)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年間の救急受入件数は約400件、消化器外科・整形外科の年間手術件数は約570件と増加傾向にあり、急性期機能については現状を維持</li> <li>・ 外科手術後のリハビリを重視した回復期機能の充実と、近隣クリニックや介護福祉施設からの脱水・低栄養・熱発・肺炎等のサブアキュートの受け入れ機能の確保が必要           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 回復期機能としての役割が求められている</li> </ul> </li> </ul> <p>&lt;在宅医療関係&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在宅専門医や担当ケアマネと連携し、各カンファレンスへの参加など関係者との連携を強化し、スムーズな在宅復帰支援に取り組む。</li> <li>・ 在宅患者等の急変時において、近隣クリニックや介護福祉施設からの受入要請に対応</li> </ul> <p>&lt;リハビリ関係&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一部の入院患者や外来患者に対する単位数が不足           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 当面の目標としては、理学療法士17名、作業療法士2名、言語聴覚士1名の合計20名体制を目指す。</li> </ul> </li> <li>・ 退院後の通所リハビリテーションや訪問リハビリにも対応</li> </ul> <p>&lt;地域密着型協力病院指定申請の予定の有無等&gt;</p> <p> <input type="checkbox"/> 有      <input type="checkbox"/> 無      <input checked="" type="checkbox"/> 検討中      <input type="checkbox"/> 指定済み         </p>